

特別支援教育研究論文集

—令和6年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

知的障害を伴う自閉症児に対する各教科等を合わせた指導の改善
—单元構想シートを活用した指導目標の設定と評価の改善—

筑波大学附属久里浜特別支援学校

研究代表 校長 齋藤 豊

令和7年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

現行の学習指導要領では、知的障害教育においても、育成を目指すべき資質・能力の三つの柱に基づいた各教科等の指導の充実が求められている。その指導形態は各学校に委ねられているが、知的障害特別支援学校では、生活に即した題材を取り上げ、各教科の目標・内容を合わせて指導する「各教科等を合わせた指導（以下、合わせた指導）」の指導形態をとることが少なくない。

知的障害を伴う自閉症児（以下、知的自閉児）のみが通う筑波大学附属久里浜特別支援学校（以下、本校）も合わせた指導を中核的な指導の一つにおいている。合わせた指導のメリットは、生活に即した題材を取り扱うことで、実感を伴いながら様々な資質・能力を身に付けられることだと考えている。一方で、活動を行うことが中心になってしまい、教師が、各教科等で取り扱う内容を十分に意識しないまま授業が行われる可能性も含んでおり、各教科の目標・内容に基づいた指導目標や指導内容、そして、評価が不明確になっているという批判もある。

本校では昨年度、単元計画の書式を「単元構想シート」として改訂し、この課題の改善に取り組んできた。本研究は、これをブラッシュアップし、合わせた指導における適切な指導目標の設定と評価を行う手続きの明確化を図ることを目的としている。

単元構想シートの改善については、「単元構想シートⅠ」（単元について）と「単元構想シートⅡ」（本単元における困難と支援のチェックリスト）、「単元構想シートⅢ」（代表児について）、「単元構想シートⅣ」（本時について）の4種に再構成した。大きな改訂のポイントは、単元の指導計画の中で評価計画を明確にしたこと、及び「困難と支援のチェックリスト」を取り入れたことである。

単元構想シートの改訂は、研究部の改定案を基に、6月に小学部全学級を対象とした授業公開と授業研究会を行い、その中で進めていった。10月、11月には小学部2学級を代表授業とし、授業公開と授業研究会に取り組んだ。本報では代表授業について、小学部1年生「おむすびころりん すっとんとん」、小学部5年生「みんなでわくわく 秋祭り」の授業実践を報告する。

単元構想シートを改善し、評価計画を明確にした成果としては、①各教科等を合わせた指導における各教科の指導目標を明確にすることができたこと、②各教科における評価を、具体的な姿を書くことで、適切な評価ができ、その姿を引き出すような支援を考えることができたことの二つが挙げられた。

また、「単元構想シートⅡよりよい学びに向けてのチェックシート」を新しく作成したで、①単元において児童の実態を明確にしたうえで、「学習が成立すること」と「学習内容を学ぶこと」のそれぞれの支援方法を考案、検討することができたこと、②合わせた指導における各教科の本質を大切にすることができたことの二つが挙げられた。

課題として、①「単元構想シート」の書式を改正し、蓄積したシートを整理し、活用すること、②既習表の扱いを明確にし、個別の指導計画、年間指導計画などに活用していくこと、③系統性を見出し、単元配列表を作成していくことが挙げられた。

今後は、これらの課題を解決していきながら、知的障害を伴う自閉症児に対する各教科等を合わせた指導の改善、そして、教育課程の改善につなげていきたい。

キーワード：各教科等を合わせた指導、指導目標の設定、評価の改善、単元構想シート